

日本衛星ビジネス協会は、6月3日(火)、総勢40名の参加を得て、東京都大田区羽田空港にある日本航空（JAL）メンテナンスセンター内の「JAL 工場見学～SKY MUSEUM～」にて施設見学会を開催しました。

「なぜ、協会で JAL の工場見学を？」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、衛星通信を使った JAL SKY Wi-Fi システムを見せていただけるということで大挙してうかがった次第です。

「JAL 工場見学～SKY MUSEUM～」では、エアラインに関わる様々な職種の仕事紹介やアーカイブ、新商品、サービス紹介などの展示エリアと、整備中の航空機を間近に見ることができる格納庫を見学することができます。



見学会では、まず JAL SKY Wi-Fi の概要を JAL エンジニアリング 技術部 技術企画室 客室仕様開発グループの松尾様にご説明いただきました。

JAL SKY Wi-Fi は、スマートフォン、ノートパソコン等の無線 LAN 対応端末を対象とした有料の機内 Wi-Fi 接続サービスで、ニューヨーク、ロンドン、ジャカルタ等の海外路線で提供されています。

- ・米州東海岸あるいは欧州ルートでは、それぞれ3～4機の通信衛星でハンドオーバーしつつ通信接続を確保。
- ・飛行機側は2枚のアンテナを組み合わせ、飛行機の位置、姿勢（傾き）に合わせて常に通信する相手方の通信衛星を自動追尾。
- ・キャビン内には5箇所のアクセスポイントが設けられており、物理的には同時に125台の端末が接続可能。
- ・エアラインではお客様を安全・確実に目的地までお届けする“100%”のサービスが



ベースとなっており、リスクを伴う新しいサービスの導入には慎重。したがい、衛星通信を使うという SKY Wi-Fi サービスもいかに“100%”のサービスを維持するかが技術的な課題で、かつ、Wi-Fi 機器が発する電波が航空機の運航に影響を与えないことの確認を実施。

続いて、格納庫で整備中の機体（ボーイング 777-300ER）で衛星通信アンテナを覆うレドーム（アンテナを見られなかったのは残念）、衛星通信のコントロール機材などの実機を見学しました。天井部分が外されたキャビン内を見るチャンスはめったにありませんので、参加者は皆興味津々でした。



さらに、隣接する格納庫では1階に下りて、離着陸する航空機を間近に見ることができたばかりでなく、ボーイング 777-300ER が整備のために格納庫に入る様子を手が届くほどの距離で見るといふ貴重な機会を得ることができました。この見学会に参加された方はとてもラッキーだったと言えるでしょう。



みんなの憧れ（＝飛行機）と衛星通信の組み合わせに加え、ご案内いただいた皆様のトリビアをちりばめた説明にも引き込まれ、終わってしまうのが何とも惜しく感じられる充実した見学会となりました。

他の見学者も多数来場されている中、施設見学を受け入れていただきました阿部様、奥山様、他 日本航空、JAL エンジニアリングの皆様、本当にありがとうございました。

また、施設見学、懇親会に参加いただいた会員の皆様、お疲れ様でした。次回、秋の施設見学会でお会いしましょう。